

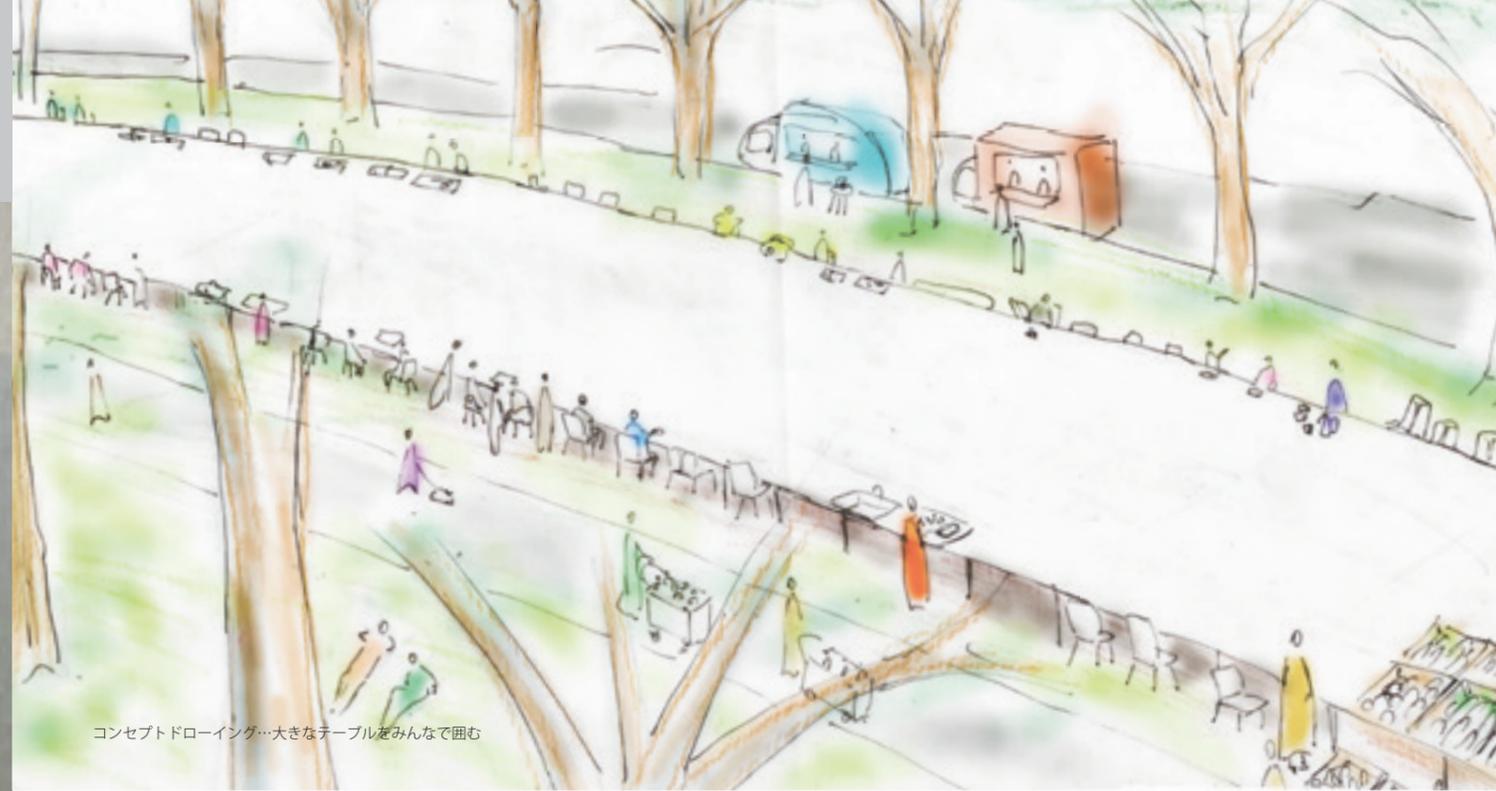
6万人の食卓

関外地区の多様性を受け入れる新たな公共空間をつくる

高橋健



「裏の広場」で、商店街や市民農園と運動してマルシェが開かれている。北側のステージは日常においては大きなテーブルとして振舞う。



コンセプトドローイング…大きなテーブルをみんなで囲む

背景

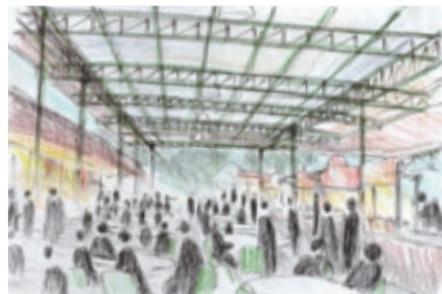
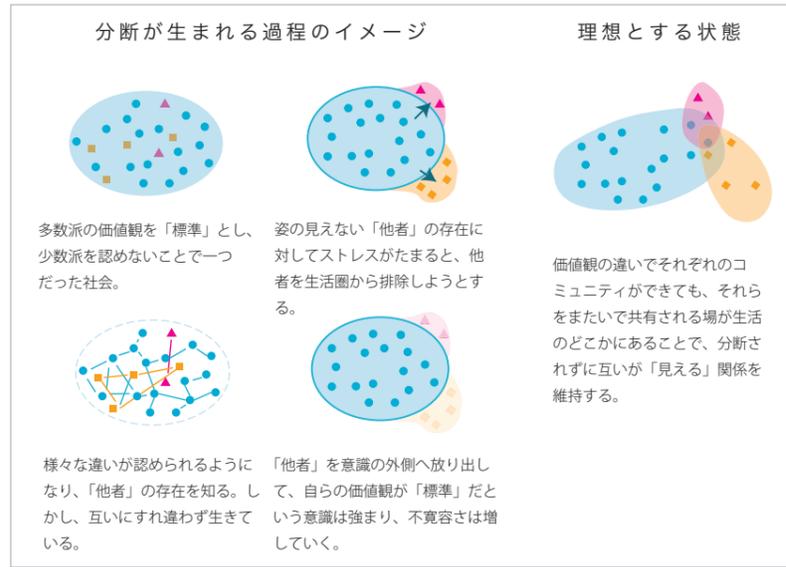
近年、人々の他者に対する不寛容さが増しているように感じる。例えば、国境や文化圏を超えた人々の移動が増えるとともに世界のあらゆるところで排他的な思想が力を持ち始め、また様々なマイノリティに対する配慮や援助を「逆差別である」と批判する声も聞くようになった。この不寛容さの根底には、多様性という価値観の副産物としての他者への無関心、あるいは他者の存在を考えたくないという意識があると考える。

あらゆる他者の存在がストレスなく許容され、皆が都市の生活に接続できるような大きな器が必要とされているのではないか。

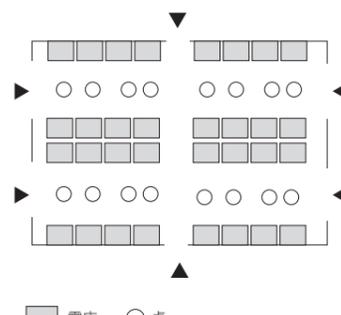
「食卓」を通して他者と共に過ごす

「大きな器」のきっかけとなり得る普遍性を持った行為として、食事について考えた。食事を人と共にすることで人との繋がりを感じるということは、文化の違いを超えて共通する価値観である。

市民という単位で食事空間を共有する事例として、シンガポールのホーカーセンターが挙げられる。シンガポールでは毎食を外食で済ませるのが一般的であり、これを支えるのが多種多様な露店の存在であるが、これらを集積して清潔な調理設備と屋根のついた食事空間を整備したものがホーカーセンターである。多様な民族・宗教の人々が、各々の食の制限や嗜好の別に関係なく、一つの屋根の下で毎日の食事の時間を共有している。



ホーカーセンター：内観



ホーカーセンター：模式図



関内・関外地区 広域地図



関外地区の街丁目別外国人居住率（2015年）*白地はデータなし

敷地：横浜・関外地区

関外地区について

関内・関外地区は、開港以来横浜の都心として発展したエリアであり、南北を丘陵に挟まれた低地（埋立地）に都市機能が集中している。外国人居住地設置当初の関所に由来して、派大岡川（現存せず）を境に臨海部は「関内」、内陸部は「関外」と呼ばれ、関外地区は港湾労働者の町や商業地、歓楽街などとして栄えた。

リサーチ：関外地区の多様性

多民族の街

関外地区の総人口に対する外国人の割合は日本でも有数の高さであり、総人口のうち22%にのぼる13972人（2015年時点）が外国人である。福富町（韓国人が多く住む）や若葉町（タイ人が多く住む）など、中華街のように特定の国籍の人々によるコミュニティができていく街もある。しかしながら、街に点々とある外国料理・食材店などを見かける他に外国人の存在はほとんど見えてこないのが実状である。



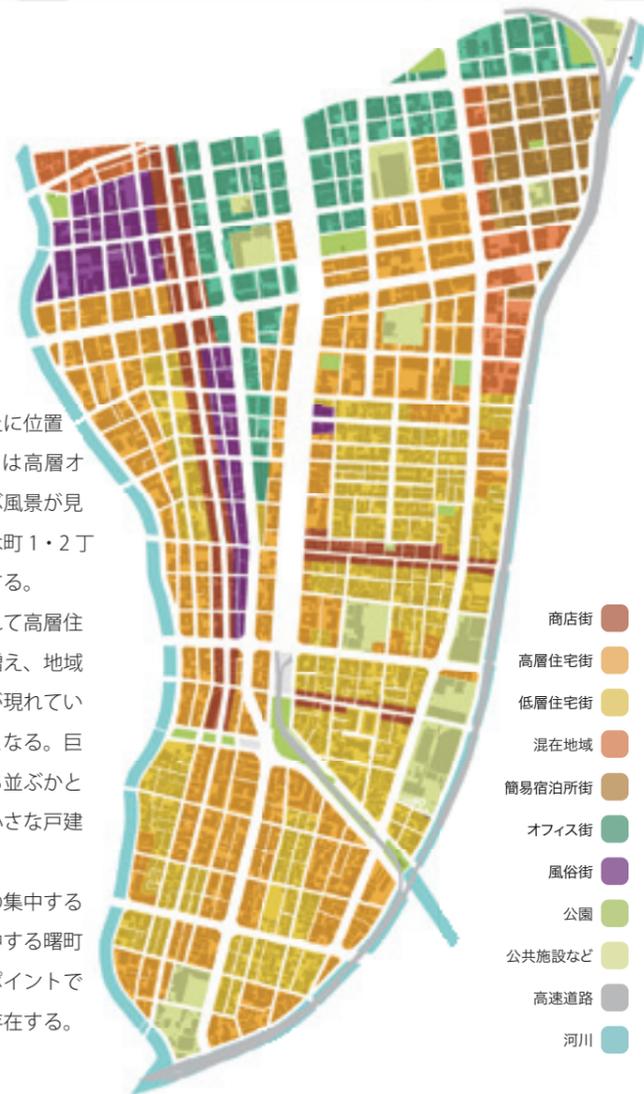
全体平面図 (1/3) S=1:1000

多個性の街

かつての派岡川上に位置する JR 関内駅付近には高層オフィスビルが立ち並ぶ風景が見られるほか、伊勢佐木町1・2丁目など繁華街が位置する。

内陸側へ進むにつれて高層住宅街や低層住宅街が増え、地域密着型の商店街などが現れ、いかにも長閑な住宅街となる。巨大なマンションが立ち並ぶかと思えば、スケールの小さな戸建て住宅地も現れる。

ほか、簡易宿泊所の集中する寿地区や風俗店が集中する曙町や福富町など、ピンポイントで特化したエリアも存在する。



- 商店街
- 高層住宅街
- 低層住宅街
- 混在地域
- 簡易宿泊所街
- オフィス街
- 風俗街
- 公園
- 公共施設など
- 高速道路
- 河川

関外地区の風景

低層住宅街



真金町

高層住宅街



弥生町

オフィス街



富士見町

不老町

外国人街



福富町

アートの街



末吉町

簡易宿泊所街



寿町

風俗街



曙町

飲食店街



長者町

商店街



横浜橋商店街



1945~1950年の航空写真 (地理院地図)



現在の様子 (地理院地図)

大通り公園：運河の時代との比較



JR 関内駅近くは、舗装された広い地面がまっすぐ伸びる整然とした空間である。イベントなどで広さを存分に使った会場がしつらわれることはあるものの、日常においては、がらんとしたよりどころのない空間には、通行人をバラバラと見かけるのみである。対して、横浜根岸道路を挟んで西側は、土の地面から生える大きな樹木に囲まれた空間となっている。両側には、首都高阪東橋出入口につながる2〜4車線の広い道路があり、交通量や土地の高低差も相まって周りの街との関係は一層薄く感じる。

大通り公園：現状

目的

都市民の大きな器となる公共の場とは、町内会のような過度に親密なコミュニティでもなく、あるいは都市公園のような縁無き空間でもない。都市の中でバラバラに生きる人々のあらゆる暮らしの姿を受け入れる大らかさを持った公共空間とはどのようなものか、「食事を共にする」というテーマから考えていきたい。

設計方針

大通り公園に関外全住民（約6万人）の食事空間をつくる。

大通り公園は、関外中央部を東西に貫く総延長約1.2km、幅約30m〜40mの細長い公園である。ここはかつての運河（吉田川、新吉田川）の跡地であり、1978年に横浜市六大事業の一環で埋め立てられ、公園として整備された。

大通り公園の長大さは、混沌とした関外の街々の住人たちを柔らかく繋ぎ、豊かな共存を実現する可能性を秘めている。しかし、都市の中心にありながら関外の人々の公共空間としてあまり浸透していないのが現状である。

関外の住民たちによる様々な食の風景が、この長大な一つの空間に覆われることにより、全体におおらかな一体感を生み出せると考える。



敷地周辺の既存プログラム

Diagram

大通り公園は周囲の街と関係を持たず、空白な場所になっている。



周囲の「食べる」という行為の場を公園に設ける。それぞれの「食べる」が現れて、公園の巨大な空白を彩っていく。



多様な人々が、「食べる」という共通の行為によって一続きにつながる空間が生まれる。



敷地の周囲から引き出されたプログラム



全体模型写真



横浜橋商店街付近

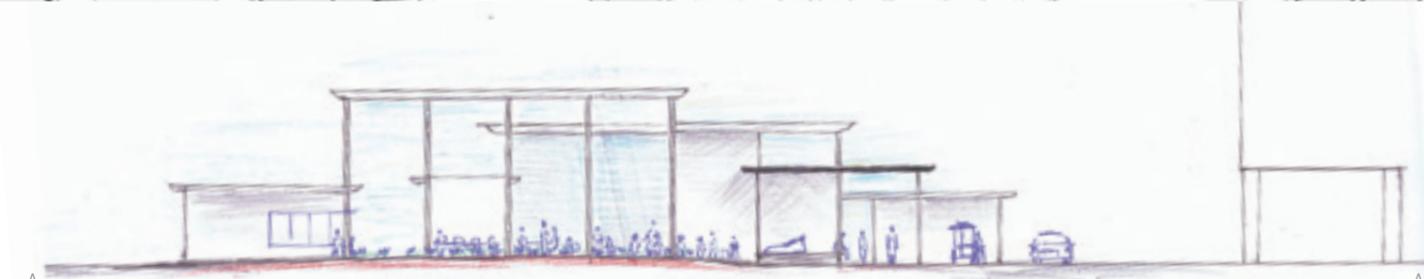


阪東橋交差点より



多様性を標榜する21世紀の世界では、価値観の違いと共に分散し続ける人々をどう分断や排除なくつなぎ止めるかが今後も重要な問題になっていくだろう。

関外の街は、6万人の食卓を持つことでそれに答える。日本人と外国人、若者と高齢者、健常者と障がい者、富める人と貧しい人などのあらゆる違いを、食べることへの普遍的な喜びが覆う。これにより、分断なき多様性社会を実現した都市生活の姿が描けると考える。



A-A' 断面図 S=1:400

Comments from Classmates

大通りにいろんな食の文化が集まってひとつながりの公共空間になる様子は、この敷地の多様さや長大さならではの面白さだと思し、その気づきがいなと思った。敷地の多様さに対して建築の強弱がもっとあって良いのかも。

亀井美里

まずは、一年間卒制お疲れ様でした。健の最後の追い込みというか、爆発力のようなものには毎回驚かされます。提出直前の、怒涛のように設計が組み上がっていく様子は個人的には大好きですが、今後は逆算的に考えつつ(笑)、設計続けていってください。

寺内太一

「食」というテーマや選びとってきた敷地候補に共通して、全ての人に向けた建築にしようとする執念が感じられた。建築を群として設計した事も、1.2kmの直線という強い空間構造を活かして多様さの集合を担保させるという意図が感じられる。将来的に増やすことも減らすこともできる建築は公共を考える上で大切な事なのかもしれないと思った。

前本哲志

自分にはないものをたくさん持っている印象で、将来バケモンになるんじゃないかと思っている。頭と手が別人格に見えるぐらいよく動くのは個人的には不思議な次元。今は頭と手が喧嘩して悩んでいるけど、うまく組み合わせたときにとんでもないものが出てくるのだと思う。卒制に関してはとても難しいテーマと場所な気がして、設計になかなか入れなかったのは半ばしょうがないとすら思えてくるけど、大学院への伏線だと思つて、健にとって色々な意味でとても良いプロセスのようにも思いました。

馬場一輝

多様性を受け止めるっていう難しいテーマを1年間考え続けたことがすごいなあと思います。ぱっと見は公園全体に白い屋根がパラパラしてるだけに見えて、よくみるとまわりの街の微妙な違いを反映してプログラムを決めているので、それをもっとカタチに現れていてもよかったのかなあと思います。あとは、文化や地域の違いを超える建築はやっぱりインターナショナルスタイルになっちゃうの…?と気になったのでいつか話してみたいです。

寺西遥夏

6万人の食卓というみんなを受け入れる大きな器のようなテーマは、食卓という身近な事でありながら大胆で、大通り公園において妙にマッチしているように感じ、たけるのいう「見える」という状態が起り得そうな素晴らしい提案だと思いました。設計としては造形も図面も綺麗な感じでしたが、もっと6万人の食卓であり、「見える」ということを感じさせるような、力強さ的なものを感じさせるものだと良かったのかなと思いました。たけるは敷地を変えたりしつつも結局ぎりぎり最初に戻ってきて卒制をしたという数少ない同志で、勝手な仲間意識を持っていました。お互いそんな感じだったので、スタディがままならないまま最後を迎えてしまい、もっとお互いスタディをしてエスキスしあいたかったなあと思います。玄関前でしてくれたエスキスは自分の中での少し飛躍になりました。ありがとう。

上山信



横浜橋商店街より



JR 関内駅側より